



2023年
3月24日
No.3

貨物労連情報

日本貨物鉄道労働組合連合会
発行人:高木康之
編集人:辻井寛明

3.21さようなら原発全国集会開催! 〈貨物労組・貨物労連からは22名が参加〉

春分の日である3月21日、代々木公園で「『さようなら原発』一千万署名市民の会」の呼びかけによる、「岸田政権の新たな原発推進政策反対！フクシマを忘れない！再稼働を許さない！3.21さようなら原発全国集会」が開催されました。冒頭、今月3日に亡くなった作家の大江健三郎さんを偲んで黙とうを捧げ、集会の呼びかけ人を代表してルポライターの鎌田慧さんは「原発は未来を造ると言ってきたが嘘っぱちだった。岸田首相の原発回帰の動き、『さようなら』ではなく、『くたばれ』という立場で取り組まなくてはならない」と訴えました。

また福島の実地からの報告では「汚染水を7月から流すと言うが認めてはならない。反対する集会を5月に開催する」「甲状腺癌の手術を行ったが、その後体調不良となった。2年に一度の健康調査に常に不安が付きまとう」などの報告が行われ、特に甲状腺癌の発症は300名にも及び現実が報告され、事実を受け止めてほしいと訴えていました。

東日本大震災から12年たった現在においても、帰還困難区域が設定され、いまだに県外に2万人以上が避難しているのが現実です。にもかかわらず政府はエネルギーの安定供給や脱炭素社会の実現にむけて、原発を活用する方向にかじを切りました。内容は最長60年とされている運転期間を実質的に延長することや、廃炉となった原発の敷地内で、次世代型原子炉の開発や建設を進めることを行なうとしています。



私たちは、原発の無い平和で、安心して暮らせる社会の実現にむけて、引き続き市民団体が主催する集会に積極的に参加していこうではありませんか！

